

# 総括評価表

(学校名：富岡東高等学校羽ノ浦校) (No.1)

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		学校関係者の意見	
I 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、学習習慣を確立し、学力の向上・定着を図る。また、主権者教育についてはより一層の創意工夫を図り、世の中の出来事に関心を持って行動できる人材を育成する。	《全校レベル》 I 自主的・主体的な学習習慣を確立し、生涯学び続ける力を育成する。  《下位組織レベル》 ①相互参観授業の実施や教員研修会、授業評価を通じて、教員の授業力の向上を図る。 [全教員] ②週課題は、思考力の育成や自主的な学習活動に繋げる。 [看護科] ③自主的学習習慣を支援するため、課題学習の工夫・改善を図る。 [専攻科] ④生徒に学習の具体的目標を持たせるため、各テスト(看護科目実力テスト、課題テスト、実習前総合評価、看護科目確認テスト、基礎看護技術実技テスト、模擬試験)を計画的に実施し、事後の個別指導の充実を図る。 [教務課、進路指導課、看護科、各教科担任、HR担任] ⑤主体的学習活動を支援するため、GIGAスクール構想の定着を図り、授業の手法を工夫する。 [全教員]	<b>評価指標</b>	①相互授業参観週間を各学期1回(年間3回)実施し、評価に基づいた授業改善を行う。 ②週課題の出題内容の充実を図り、テーマを設定した調べ学習を各学期1回以上設定する。 ③授業評価で「家庭学習(予習復習・課題)ができた」が70%以上をめざす。 ④授業評価で「発表や質問、返答が積極的にできた」が70%以上をめざす。 ⑤学年末成績平均が60点未満の生徒は、保護者を変えて次年度の学習への取り組みや、学校生活について面談を行う。	<b>評価指標の達成度</b>	○タブレットを使用した授業で、調べ学習の内容を視覚的に共有し、表計算ソフトを利用した意見の集計やプレゼンテーションソフトでの図表の確認など生徒の操作技術が向上していると感じられる。 ○阿南市選管の協力による生徒会役員模擬選挙を実施したことを通して、主権者教育への関心度が高まっていることが理解できた。
		<b>活動計画</b>	自主的・主体的な学習の習慣化やGIGAスクール構想の定着を図り、ICTを活用した指導体制の強化により、授業展開を工夫し思考力の育成を図る。 ①「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」手法を取り入れる。 ①-1 授業にICTを積極的に活用し、深く高度な学びの機会を提供する。 ①-2 専門領域の外部講師を本年度も継続して招聘し、最新情報を取り入れる。 ②定期考査や模擬試験返却時、個人面談を行い、個々に応じたアドバイスや指導を行う。 ③定期考査・課題テストにおいて60点に満たない学生は補充学習を行い、学力の向上を図る。 ④授業評価アンケートを行い、その結果を授業改善につなげる。 ⑤主権者教育に関するホームルーム活動や学校行事等を年3回以上実施する。	<b>総合評価</b> (評定) B  (所見) 授業評価アンケートにおいて「興味・やる気を持って取り組んでいる」が看護科89.3%、専攻科98.3%、「教員の説明に集中した」は看護科92.6%、専攻科98.3%であった。教員はICTを積極的に授業に取り入れ、主体的な学習ができるよう授業改善に取り組んだ。主権者教育では、特に「以前より関心が高まった」とした生徒は昨年比で10.7%増加し、「選挙に行きたい」や「討論会に参加したい」など前向きな意見が増えつつある。令和4年4月からの成年年齢の引き下げにより、主権者としての自覚が高まりつつある。	
		<b>活動計画による実施状況</b>	GIGAスクール構想の目標に沿って、授業改善を行い、教員側の意識変革に努めた。学校評価アンケートの「先生は家庭学習習慣づけに努力している」という項目では、看護科90.4%、専攻科87.5%となった。 ①-1 ICTを積極的に活用し、学生・生徒の意見を表明する場面を設定し、特にタブレットで表計算ソフトを利用し、個々の意見を集約して課題に取り組む態度を育んだ。 ①-2 基礎看護、老年看護、成人看護、小児看護、在宅看護論、精神看護、母性看護の分野で外部講師を招聘し、講演・講義を実施した。 ②定期考査前後に個人面談を実施し、成績不良者に対しては、振り返り学習の指導を行った。 ③定期考査後にはその結果を受け、再考査に向け補講を行った。また、課題テストについては特別補習を実施した。 ④説明や教える手順、疑問や質問への対応など、授業評価を活かした授業改善につなげられた。 ⑤主権者教育に関するホームルーム活動2回と模擬選挙を実施した。		

# 総括評価表

(学校名：富岡東高等学校羽ノ浦校) (No.2)

		自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
II ①臨地実習での支援体制を充実する。 ②看護師国家試験合格をめざす。	《全校レベル》 II ①臨地実習において必要な基礎学力の充実を図る。 ②生徒の力量に応じた個別指導に取り組み、看護師国家試験合格をめざす。  《下位組織レベル》 ①看護科と専攻科の連携を深め、臨地実習指導の充実を図る。[看護科・専攻科教員] ②実習時における個別・グループ別指導の充実を図る。[看護科・専攻科教員] ③臨地実習指導者と密接な連携を図る。 [看護科・専攻科教員・各施設担当者] ④模擬試験の有効活用に取り組む。 [看護科・専攻科教員・進路指導課]	<b>評価指標</b>	①看護科と専攻科が連携を図りながら、適切な資料の提供等、生徒・学生が実習しやすい支援体制を整える。	<b>評価指標の達成度</b>	総合評価  B  <b>(所見)</b> 生徒・学生は臨地実習に真摯に取り組むことができている。新型コロナウイルス感染症予防のため、実習が途中から校内実習に変更されたこともあったが、個々の学びを全体の反省会や面談で振り返ることができた。実習中の学びを授業、演習や国家試験の勉強に取り入れ、学習意欲の向上を図ることもできた。	○年度当初の実習計画に沿って予定どおりに実施し、評価を行ったので総合評価はBが適当である。 ○新型コロナ禍の中で限られた実習日の体験を通して看護師のイメージ作りができたのは貴重な体験である。 ○校内実習への代替措置としてDVソフトや書籍を準備したのは評価できる。 ○過去問題の傾向を分析し、学生のモチベーションを上げつつ、模擬試験の実績を積み上げていく取組を高く評価したい。	○病院・施設における新型コロナの状況が社会全体と比較して厳しい中、ほぼ予定通りに臨地実習が実施できたことはよかった。一方で、課題が見つかる前に実習が終了してしまうことも予測されるため、反省会等の振り返りが十分確保できるよう、今後病院側とも協議を持って行きたい。 ○外部講師による授業の内容が国家試験に活かされているという意見もあり、口頭試問や習熟度別指導の充実により、さらなる知識の定着に向けた指導法に繋がりたい。
			②臨地実習指導者との連携を密にし、生徒の課題を早期に把握し、適切に対処する。	②実習場のスタッフと密に連携を図り生徒の状況把握に努めた。校内演習中も個別に気になる生徒に対して面談等を行い、課題の早期解決を図った。			
			③臨地実習中及び終了後に、生徒全員に、実習場面の振り返りを行わせ、思考判断能力を育成する。	③臨地実習や校内演習の終了時点で、実習を振り返っての学びと反省をそれぞれにまとめ発表した。			
			④専攻科において、各模擬試験の有効活用を図り、必修問題8割、一般問題7割に満たない者は再試験を実施する。	④再試験は、テスト終了毎に記述式問題や口頭試問を取り入れ、知識の定着に努めた。			
		<b>活動計画</b>	臨地実習を通して学びを深め、看護師国家試験に意欲的に取り組めるようにする。	<b>活動計画の実施状況</b>			
	①臨地実習中は随時、個別指導を行うとともに、専門書を活用させ、自ら学ぶ環境を整える。	①実習中の記録指導において文献を活用した根拠を持った記録が書けるよう個別指導を行った。		②日々、報告・連絡・相談や情報共有の重要性について指導し、徹底を図った。			
	②実習内容の報告を徹底し、生徒・教員間で連絡・相談を行う。	②専攻科において、各模擬試験の得点率が、必修問題8割、一般・状況設定問題7割以上になるまで再試験を実施する。	③校外模試、校内模試共に、終了後すぐに、再テストや口頭試問で不足している知識について個別指導を実施した。				
	④専攻科における補習や国試演習において、習熟度別等のグループに分け、個に応じた指導を行う。	④習熟度別の2コースに分けることにより、より具体的な指導に繋がった。					

# 総括評価表

(学校名：富岡東高等学校羽ノ浦校) (No.3)

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	評価	学校関係者の意見	
Ⅲ 心豊かな人間性を育み、社会に貢献できる看護師の育成をめざす。	<p>《全校レベル》</p> <p>基本的な生活習慣の確立をめざし、あいさつの励行や望ましい言葉遣いや態度、マナーを身につけさせ、習慣化を図る。</p> <p>《下位組織レベル》</p> <p>①「服装・マナーアップ週間」を設定し、頭髪服装指導に取り組むとともに、相手や場に合った言葉遣い・礼儀・あいさつ・マナーについて自己評価させ、社会的素養を高める。 [生徒指導課]</p> <p>②生徒会や生活委員等によるあいさつ運動を積極的に展開する。 [生徒指導課・特別活動課]</p> <p>③いじめの未然防止、早期発見に努める。[生徒指導課・人権教育教育相談課]</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>①各学年で、毎月服装・頭髪指導を実施し、指導を受ける生徒が5%以内をめざす。</p> <p>②あいさつや会釈が出来る生徒が90%以上をめざす。</p> <p>③適切な対応ができ、敬語が使える生徒が90%以上をめざす。</p> <p>④スクールカウンセラーと連携を図り、生徒の悩み等の支援体制を整備する。</p> <p>⑤教職員に対して、自ら悩みを相談できる生徒が70%以上をめざす。</p> <p>⑥「生徒指導方針に賛成である」が生徒・保護者ともに95%以上をめざす。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>①各学年とも長期休業日明けに指導回数が増加する傾向にあるが、月初めの一斉服装・頭髪指導の対象者は5%以内となった。頭髪に関して指導を受ける生徒は1%であった。</p> <p>②学校評価アンケートの「挨拶ができています」の項目で、看護科93%、専攻科89.3%となった。</p> <p>③学校評価アンケートの「適切な言葉遣いができている」の項目で、看護科92.2%、専攻科93.1%となった。</p> <p>④スクールカウンセラーと生徒及び保護者の面談を延べ14回実施した。</p> <p>⑤学校評価アンケートの「先生にいろいろな悩みを相談できる」の項目では、看護科60.6%となり、昨年比2.9%上昇した。また、専攻科では62.5%となり、昨年比8.9%上昇した。</p> <p>⑥学校評価アンケートの「生徒指導方針に賛成である」という項目で、看護科生徒75.1%、保護者78.1%となった。専攻科学生については70.8%、保護者91.7%となった。</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p>B</p>	<p>○服装・頭髪や挨拶、適切な言葉遣いなどが高い評価となっており、指導が行き届いていること、教員と生徒との関係性が構築できていることが感じられ、評価できる。</p> <p>○「いじめアンケート」で、少しでも「あり」の回答があれば保護者・生徒に確認を取り、速やかに対応する、いじめを絶対に逃さない体制作りがされていると評価できる。</p> <p>○「教職員に悩みを相談できる」とあるが、必ずしも教員だけと限らないため、「誰に相談したか」、「打ち明けて良い方向にいったのか」、「解決できたのか」などより深く調査することも検討して欲しい。</p> <p>○スクールカウンセラーへの相談延べ件数が挙げられているが、同じ生徒が複数回相談したとも考えられる。悩んだ時に相談できる支援体制作りを努めて欲しい。</p> <p>○「生徒指導方針に賛成である」の割合は高いとは言えない。学校評価や学則の見直し等に保護者の意見も参考にしてはどうか。</p>	
		<p><b>活動計画</b></p> <p>生徒指導やマナー指導について、全教職員で共通理解のもと、協力して取り組む。教育相談支援体制の強化を図り、生徒が様々な悩みについて相談しやすい環境を整備する。</p> <p>①毎月の服装・頭髪指導を徹底し、ルール遵守の意識・実践力の向上を図る。</p> <p>②生徒会役員や生活委員等を中心に「あいさつ運動」を行う。</p> <p>③TPOに応じた礼儀や言葉遣いの指導を行う。</p> <p>④年3回以上いじめアンケートを実施し、いじめの相談があった場合は速やかに対応する。</p> <p>⑤カウンセリングの利用機会を増やすなど教育相談体制の充実に努める。</p> <p>⑥日常的に教員から生徒への声かけを意識するなど、生徒が相談しやすい環境整備に努める。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>職員室の入退室時や各行事での所作や言葉遣いなど、臨地実習等でのマナー指導を想定した学校生活の全場面で常時指導を実施している。教員への悩み相談や家庭への連絡を密にし、生徒を支援する体制づくりを整備している。</p> <p>①学校評価アンケートの「(本人・子の)身だしなみはきちんとしている」という項目で、看護科生徒98.3%、保護者96.5%となった。専攻科学生については93%、保護者94.5%となった。</p> <p>②4・6・9・11・1月の年間23回のあいさつ運動を実施した。</p> <p>③学校評価アンケートの「時間やマナーを守る取組がなされている」という項目では、看護科が85.1%、専攻科が86.1%となった。</p> <p>④年間4回(5・6・12・2月)「いじめアンケート」を実施し、疑いのある事案について、いじめ防止対策委員会を3回実施した。また、5月にスクールロイヤー派遣事業を活用し、教職員対象の研修会を実施した。</p> <p>⑤「スクールカウンセラー通信」を各学期に1回発行し、カウンセリングの利用促進に努めた。</p> <p>⑥学校評価アンケートの「人権尊重のための取組がなされている」の項目で、看護科89.5%、専攻科82%となり、生徒が安心して話せる環境が概ね整っている。</p>	<p><b>(所見)</b></p> <p>長期休業日中に染髪した生徒・学生も始業式までには自主的に直すなど、事後指導の対象者は少ない。制服の着崩しについても、その都度指導を行っており、身だしなみを整える意識は高いと考える。</p> <p>スクールカウンセラーとの面談回数は昨年と比べ約3割減少しているが、一方、学校評価アンケートの「先生にいろいろな悩みを相談できる」を昨年と比較すると、看護科で2.9%、専攻科では8.9%増加している。教育相談支援体制の強化やいじめ防止対策に努めた成果が少しずつ表れたと捉えている。</p>		